

ハンガリー政治・経済月報

(2 0 0 4 年 3 月)

平成 1 6 年 4 月
在ハンガリー日本大使館

．内 政

1 . メッジェシ首相とオルバーン前首相の公開会談

(1) 1 日、メッジェシ首相とオルバーン前首相・青年民主連盟 (F I D E S Z 。第 1 野党) 党首の公開会談が国会議事堂内において約 9 0 分間実施された。メッジェシ首相は、歴代の首相経験者と今後のハンガリーのあり方、重要問題に関し与野党の立場を越えて話し合いたいとして、二者会談を呼びかけ、オルバーン前首相もこれに応じた。当初、本会談も他の首相経験者との会談同様に非公開とされる予定であったが、会談直前にメッジェシ首相がプレスに対し公開会談とすることを提案し、オルバーン前首相も了承した。

(2) 本会談では両者とも自らの立場に固執し、終始すれ違いのまま終了した。メッジェシ首相は政治スタイル、左右両派の和解につき話し合いたいと述べたのに対し、オルバーン前首相はメッジェシ首相の本会談招待文言を踏まえ具体策を協議し合意したいとして、以下の提案を行った。

(ルーマニアの) トランシルヴァニアのシャピエンティア大学への支援。

ステータス法に盛り込まれた(ハンガリー系少数民族に対する)教育育児支援実施。

(ルーマニアの) セーケイ地方の自治の承認。

証券取引における為替差益税復活と、同税を財源とする「家庭創造」支援(家族、世帯への支援)。

家族、世帯優遇税制の復活。

薬品付加価値税の低減。

2 0 0 7 年 - 1 4 年国民開発計画の (内閣ではなく) 国会での策定。

(3) 本会談でメッジェシ首相、オルバーン前首相は、ハンガリー系少数民族に対する教育育児支援、及び E U 加盟に抵触しない形での薬品付加価値税の低減の 2 点についてのみ、意見の一致を見た。

2 . メッジェシ首相の国民投票提案

(1) 2 月 2 8 日、メッジェシ首相は、ミシュコルツ市の社会党支部主催の会合に出席した際、2 月 1 6 日の首相国政評価演説の中での首相提案につき、国会 4 政党が責任を逃れようとするなら、これを国民投票にはかる用意がある旨述べた。

ネープサバッチャーグ紙 (第 1 与党社会党寄り) によれば、メッジェシ首相は同紙に対し、国会議員定数削減については投票結果が拘束力を有する国民投票、大統領直接選挙については投票結果が拘束力を有さず民意を明らかにするに留まる国民投票にはかりたいが、当国欧州議会議員選挙 4 国会政党共同候補者リスト作成については国民投票にはかるつもりはないと述べた。

(2) 更に 2 日、メッジェシ首相はブダペスト市チェペル島で開催された住民集会に出席した際、「仮に (同首相による国民投票提案につき) 国会各政党の同意が得られなければ、6 月 1 3 日の当国欧州議会議員選挙の機会に、大統領直接選挙及び国会議員定数削減についての国民投票を実施することを提案したい」と述べた。

(3) 自由民主連盟 (SZDSZ。第2与党) は、大統領直接選挙に反対であり首相提案は受け入れられないとの見解を示した。また青年民主連盟 (FIDESZ。第1野党) 関係者は、首相の国民投票提案は国民の注意関心を逸らすための方便であるとしている。

3. 3月15日革命記念日行事

(1) 15日、1948年の対オーストリア独立戦争・革命記念日の祝日に、ブダペストではコッシュート広場 (国会議事堂前広場) で政府記念式典が開催され、その後、国立博物館前 (1948年当時、愛国詩人ペテーフィが愛国詩の朗読を行った場所) 更に夕刻には国立劇場で政府記念行事が行われた。メッジェシ首相は市内ピルヴァックス・カフェ (独立戦争の発起場所) での自由プレス賞授与式で、マジャール教育相は国立博物館前で、またレーヴァイ機会均等無任所相が国立劇場でそれぞれ演説した。メッジェシ首相はコッシュート広場で演説予定であったが、EU加盟反対を唱える右派団体関係者が同広場にいたため、演説を控えた。

(2) 例年通り、国会議事堂でマードル大統領より、コッシュート賞 (文化芸術関係者) セーチェニ賞 (学術研究関係者) 及びハンガリー共和国勲章の授与式が行われた。また、国立劇場で文化関係者への各章の表彰が行われた。

(3) デムスキ市長がブダペスト市内ペテーフィ像前で、シリ国会議長はショブロン市で、オルバーン前首相・青年民主連盟 (野党第1党。FIDESZ) 党首はミシュコルツ市で演説を行った。

4. 社会党党大会

(1) 12日、セゲド市のスポーツ・アリーナにて、社会党 (MSZP。第1与党) 党大会が開催され、コヴァーチ党首 (外相) メッジェシ首相、ホルン前首相等が演説を行った後、ハンガリー欧州議会議員選挙の社会党同議員候補者24名のリスト案が採択された。

(2) 事前の本件リスト案と同様、第1位コヴァーチ党首・外相、第2位ホルン前党首・元首相、第3位レーヴァイ機会均等担当無任所相の順序に変更はなく、またコヴァーチ、ホルンが当選してもストラスプールには行かず同リストから両者が外れ繰り上げがなされることについてもこれまで通りとなった。

(3) 通常、社会党党大会は週末の1~3日に亘って開催されるところ、今次大会は約半日で終了する臨時党大会的意味合いが強いものであった。会場にはEUのロゴ、旗とハンガリー欧州議会議員選挙の社会党同議員候補者ポスターが掲示され、6月予定の当国欧州議会議員選挙を意識した党大会となった。

5. 青年民主連盟 (FIDESZ) - ハンガリー市民連盟党大会

(1) 27日、青年民主連盟 (FIDESZ) - ハンガリー市民連盟 (野党第1党) は連盟集会 (党大会) をブダペスト市内スポーツ・アリーナで開催し、約1万人が出席した。

(2) 同大会で演説したオルバーンFIDESZ党首 (前首相) は、本年度政府予算修正のための国民請願書への100万人の署名集めを提案した。政府予算修正のための国民投票は憲法により不可能とされており、政府与党は、本件署名は選挙キャンペーンにすぎず、またFIDESZの予算修正案は増税を意味するものと批判している。

6. メッジェシ首相3提案、大統領適格者に関する世論調査

29日付マジャール・ヒールラップ紙（第2与党自由民主連盟・SZDSZ寄り）は、2月16日のメッジェシ首相の国政評価演説中の3提案（欧州議会議員選挙国会4政党共同リスト作成、大統領直接選挙及び国会議員定数削減）及び大統領適格者についてのメディアーン社（第2与党SZDSZ寄り）世論調査結果につき報道している（同調査は3月5 - 9日、全国の成人1200名に対して実施）。

（1）メッジェシ首相諸提案の知名度と支持率（質問対象者全員における割合）

	（提案を聞いたことがある）	（提案を支持する）
国会議員定数削減：	42%	87%
大統領直接選挙：	34%	65%
欧州議会議員選挙国会4政党共同リスト作成：	39%	38%

（2）メッジェシ首相の意図についての意見

	（首相は本当に意図して提案を行った）	（人々の関心を経済問題から逸らすため）	（わからない）
質問対象者全員：	38%	50%	12%
FIDESZ支持者：	13%	81%	6%
社会党支持者：	81%	11%	8%
SZDSZ支持者：	51%	35%	14%
支持政党なし：	29%	50%	21%

（3）共和国大統領として誰がふさわしいか（質問対象者全員の回答）

マードル大統領：	25%
ゲンツ前大統領：	24%
オルバーンFIDESZ党首・前首相：	6%
ダーヴィド・MDF党首：	5%
コヴァーチ外相・社会党党首：	4%
クンツェ自由民主連盟党首：	3%
その他の人物：	6%
わからない：	27%

7. 支持政党、選挙に関する世論調査

（1）27日付当地各紙報道

（イ）支持政党

（注）4大世論調査機関：メディアーン社（第2与党SZDSZ寄り）
 世紀末タールキ社（中立的）
 ソンダ・イブソス社（第1与党社会党寄り）
 ギャラップ社（第1野党FIDESZ寄り）

4大世論調査機関における3月時点での質問対象者全員についての支持政党

	メディアーン	タールキ	ソンダ・イブソス	ギャラップ
青年民主連盟(FIDESZ)：	31%	34%	34%	34%
社会党(MSZP)：	25%	26%	24%	20%

確実に投票に行くと回答した支持政党を有する者の3月時点での支持政党

	メディアーン	タールキ	ソンダ・イブソス	ギャラップ
青年民主連盟(FIDESZ)：	50%	48%	53%	54%
社会党(MSZP)：	39%(注)	38%	36%	31%
自由民主連盟(SZDSZ)：	6%	5%	4%	3%
ハンガリー民主フォーラム(MDF)：	2%	2%	2%	3%

（注）ネーブサヴァ紙は39%、マジャール・ヒールラップ紙は40%と報道。

（ロ）欧州議会議員選挙（世紀末タールキ社調査結果）

6月の欧州議会議員選挙に確実に投票する：59%
 確実に投票すると回答した者の支持政党
 青年民主連盟(FIDESZ)：53%

社会党 (MSZP): 35 %
 自由民主連盟 (SZDSZ): 3 %
 ハンガリー民主フォーラム (MDF): 3 %

(2) 24日付ネーブサバチャグ紙 (第1与党社会党寄り)

ソンド・イプソス社 (第1与党社会党寄り) による支持政党・選挙についての世論調査 (3月6 - 15日データ収集。当国の18歳以上の国民1500人に照会)

(イ) 支持政党の変遷 (投票に行くと回答し、いずれかの政党を選択した者の支持政党)

(与党)
 社会党 (MSZP) : 1月 40 %、2月 36 %、3月 36 %
 自由民主連盟 (SZDSZ) : 1月 4 %、2月 4 %、3月 4 %
 (野党)
 青年民主連盟 (FIDESZ) : 1月 49 %、2月 52 %、3月 53 %
 ハンガリー民主フォーラム (MDF) : 1月 2 %、2月 2 %、3月 2 %
 (非国会政党)
 ハンガリー正義・生活党 (MIEP) : 1月 2 %、2月 2 %、3月 2 %
 中央党 (CENTRUM) : 1月 2 %、2月 1 %、3月 1 %
 その他の政党 : 1月 1 %、2月 3 %、3月 3 %

(ロ) 仮に今週日曜に総選挙があればどの党に投票するか (全員よりの回答、3月)

(与党)
 社会党 (MSZP) : 24 %
 自由民主連盟 (SZDSZ) : 3 %
 (野党)
 青年民主連盟 (FIDESZ) : 34 %
 ハンガリー民主フォーラム (MDF) : 2 %
 (非国会政党)
 ハンガリー正義・生活党 (MIEP) : 1 %
 その他の政党 : 3 %
 わからない、投票しない : 34 %

(3) 19日付マジャール・ヒールラップ紙 (第2与党SZDSZ寄り)

支持政党に関するメディアーン社 (SZDSZ寄り) の世論調査結果 (質問対象者全てにおける過去3ヶ月における支持政党の変遷)

(与党)
 社会党 (MSZP) : 1月 25 %、2月 25 %、3月 25 %
 自由民主連盟 (SZDSZ) : 1月 3 %、2月 4 %、3月 4 %
 (野党)
 青年民主連盟 (FIDESZ) : 1月 37 %、2月 34 %、3月 31 %
 ハンガリー民主フォーラム (MDF) : 1月 1 %、2月 2 %、3月 2 %
 その他の政党 : 1月 2 %、2月 2 %、3月 2 %
 わからない、未回答 : 1月 20 %、2月 21 %、3月 22 %
 確実に投票に行かない : 1月 12 %、2月 12 %、3月 14 %

8. 当国政治家好感度、知名度世論調査

(1) 27日付マジャール・ネムゼト紙 (第1野党FIDESZ寄り)

政治家人気指標 (世紀末タールキ社 (中立的) 2004年3月調査結果)。支持率、知名度の順 (括弧内は2003年9月調査結果との比較)

[1]	マードル大統領:	65 % (+1)	98 %
[2]	ダーヴィド・MDF党首:	61 % (-2)	98 %
[3]	オルバーンFIDESZ党首・前首相:	53 % (+5)	98 %
[4]	シリ国会議長:	53 % (-3)	92 %
[5]	クンツェル自由民主連盟党首:	52 % (+1)	98 %
[6]	マジャール教育相:	48 % (-1)	90 %
[7]	デムスキ・フダペスト市長:	48 % (-4)	98 %
[8]	ラムペルト内相:	48 % (-3)	94 %
[9]	ヘレーニMDF議員団長:	47 % (+2)	53 %
[10]	コヴァーチ外相・社会党党首:	46 % (-3)	94 %

[11]	ポレコンルドニフイD E S Z 副党首：	4 6 %	(+ 2)	9 4 %
[12]	レキシムドヴファイ社党国会議員団長：	4 5 %	(- 4)	9 1 %
[13]	メッシュンヴ首相：	4 4 %	(+ 1)	5 4 %
[14]	キムシデール首相：	4 4 %	(+ 1)	9 9 %
[15]	アヴァンシール首相：	4 4 %	(0)	8 9 %
[16]	コヴグァーシール首相：	4 1 %	(- 3)	2 2 %
[17]	ロドガラシール首相：	4 0 %	(+ 2)	7 7 %
[18]	ユケハール首相：	3 9 %	(な 4)	7 1 %
[19]	トケトル首相：	3 3 %	(+ 3)	8 8 %
[20]	チユルカM I E P (極右) 党首：	3 1 %	(+ 2)	7 7 %
[22]		1 6 %	(- 1)	9 5 %

(2) 2 9 日付ネーブサバッチャーグ紙 (第 1 与党社会党寄り)

ソンド・イブソス社 (社会党系)。好感度、知名度の順 (括弧内は先月比)。2 0 0 4 年 3 月 6 日 - 1 5 日、1 8 才以上の市民 1 5 0 0 名を対象に実施。

[1]	ダーヴイルド・M D F 党首：	6 2 %	(- 1)	9 2 %
[2]	バーン大統領：	6 2 %	(0)	9 2 %
[3]	バルンデイン司法相：	5 4 %	(- 3)	9 7 %
[4]	シバリーン F I D E S Z 党首・前首相：	5 4 %	(+ 2)	9 7 %
[5]	シバリーン F I D E S Z 党首・前首相：	5 3 %	(0)	8 6 %
[6]	デムスキー・ダペスト市長：	5 0 %	(+ 2)	9 3 %
[7]	ラムベルト内相：	4 9 %	(0)	8 5 %
[8]	クンツェ自由民連盟党首：	4 9 %	(+ 1)	9 4 %
[9]	メッセル文化遺産相：	4 8 %	(0)	9 6 %
[10]	ヘレンドヴァール F I D E S Z 党首：	4 7 %	(- 1)	5 5 %
[11]	ヘレンドヴァール F I D E S Z 党首：	4 6 %	(- 2)	8 1 %
[12]	レマコヴァール F I D E S Z 党首：	4 6 %	(0)	8 4 %
[13]	コヴァール F I D E S Z 党首：	4 5 %	(- 1)	8 8 %
[14]	ペルシヤグ環境相：	4 5 %	(0)	4 4 %
[15]	チシラグ経済相：	4 2 %	(+ 1)	5 9 %
[16]	キシラグ経済相：	4 2 %	(- 1)	5 3 %
[17]	シラグ F I D E S Z 国会議員団長：	4 2 %	(+ 1)	8 5 %
[18]	アハーン国防相：	4 1 %	(- 2)	6 7 %
[19]	コハーン国防相：	4 1 %	(- 1)	5 0 %
[20]	プハーン国防相：	4 1 %	(- 1)	6 0 %
[21]	ネケケー F I D E S Z 党首：	4 0 %	(- 3)	7 8 %
[22]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 7 %	(- 1)	7 9 %
[23]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[24]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[25]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[26]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[27]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[28]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[29]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[30]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[31]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[32]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[33]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[34]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[35]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[36]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[37]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[38]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[39]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[40]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[41]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[42]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[43]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[44]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[45]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[46]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[47]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[48]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[49]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[50]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[51]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[52]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[53]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[54]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[55]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[56]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[57]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[58]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[59]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[60]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[61]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[62]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[63]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[64]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[65]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[66]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[67]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[68]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[69]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[70]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[71]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[72]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[73]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[74]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[75]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[76]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[77]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[78]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[79]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[80]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[81]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[82]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[83]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[84]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[85]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[86]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[87]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[88]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[89]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[90]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[91]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[92]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[93]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[94]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[95]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[96]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[97]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[98]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[99]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %
[100]	ケケー F I D E S Z 党首：	3 6 %	(+ 1)	7 9 %

(3) 1 9 日付マジャー・ヒールラップ紙 (第 2 与党 S Z D S Z 寄り)

政治家人気度に関するメディアーン社 (S Z D S Z 寄り) の世論調査結果。最も知名度が高い政治家 1 2 名の過去 2 ヶ月の人気度 (括弧内は 2 月と比べた増減)

[1]	ダーヴイルド・M D F 党首	2 月	7 1 %	3 月	7 3 %	(+ 2)
[2]	バーン大統領	2 月	6 5 %	3 月	6 5 %	(0)
[3]	クンツェ自由民連盟党首	2 月	5 9 %	3 月	6 0 %	(+ 1)
[4]	デムスキー・ダペスト市長	2 月	5 5 %	3 月	5 4 %	(- 1)
[5]	オバリーン F I D E S Z 党首・前首相	2 月	5 3 %	3 月	5 3 %	(0)
[6]	シバリーン F I D E S Z 党首・前首相	2 月	5 3 %	3 月	5 2 %	(- 1)
[7]	マシラグ F I D E S Z 党首・前首相	2 月	5 1 %	3 月	5 0 %	(- 1)
[8]	ポコマル F I D E S Z 党首・前首相	2 月	4 1 %	3 月	4 7 %	(+ 6)
[9]	ラムベルト内相	2 月	4 9 %	3 月	4 6 %	(- 3)
[10]	アハーン国防相	2 月	4 4 %	3 月	4 5 %	(+ 1)
[11]	コヴァール F I D E S Z 党首	2 月	4 4 %	3 月	4 3 %	(- 1)
[12]	メッセル文化遺産相	2 月	4 6 %	3 月	4 1 %	(- 5)

． 外 交

1．E U関係

(1) 1 8 日、ハンガリーの欧州議会議員選挙実施日が公示された。6月13日日曜日に行われる。

(2) 2 5 - 2 6 日、ブリュッセルにて春の欧州理事会が開催され、当国からはメッジェシ首相及びコヴァーチ外相が出席した。同会合では、E Uのテロとの闘いに関する宣言が採択された。また、欧州憲法条約を巡る政府間会議 (I G C) が再開し、6月末までに同条約を完成させるという目標が設定された。

2．イラク復興支援

(1) 1 0 日、イラクに派遣中のハンガリー輸送部隊約300名のうち、203名が任期を終了してハンガリーに帰還した。現在イラクでは、任期を延長した約100名及び2月末に交代要員として新たにイラクへ派遣された193名の合計約300名のハンガリー兵士が活動している。

(2) 2 6 日、ユハース国防相はハンガリー輸送部隊が駐留するイラク中部ヒッターを訪問し、現地を視察、ハンガリー兵を激励した。今次訪問は当初19日頃を予定していたが、安全上の観点から延期されていた。同国防相のイラク訪問は今回で2回目。

3．N A T O ・ 国防関係

(1) 1 6 日、ハンガリー政府は、臨時の国家安全保障会議を開催し、当国に対する直接のテロの脅威はないと判断。他方で、空港や駅、地下鉄等の警備体制を強化することを決定した。同会議開催は、11日にスペインの首都マドリードで起こった爆弾テロ事件を受けたもの。

(2) 2 1 日及び22日、デ・ホープ・スフェッヘルN A T O事務総長が当国を訪問し、マードル大統領表敬訪問、メッジェシ首相、コヴァーチ外相及びユハース国防相とそれぞれ会談を行った。今次訪問は、昨年11月に着任したN A T O事務総長の着任挨拶が主な目的。

(3) 2 9 日、ワシントンにてルーマニア、ブルガリア、スロバキア、スロベニア、エストニア、ラトビア及びリトアニアのN A T O加入書が寄託され、7カ国は正式にN A T Oに加盟した。メッジェシ首相は同7カ国首相宛にN A T O加盟を歓迎する旨の祝電を送った。

4．地域協力

(1) 8 日、ヴィシェグラード4カ国 (V 4。ハンガリー、ポーランド、チェコ及び

スロバキアの4カ国)首相級会合がチェコ・プラハにて行われた。ハンガリーからは、ユハース・E・U担当無任所大臣がメツジェシ首相代理として出席した。今次会合ではV4各国のE・U加盟後の協力等について話し合われた。

(2)12日、V4大統領会合がスロバキア・コシツェにて行われた。ハンガリーからはマードル大統領が出席した。各国大統領は同会合で、E・U加盟後もV4協力を継続していくことで合意した。

(3)26日、V4+ベネルクス諸国(ベルギー、オランダ、ルクセンブルク)会合がブリュッセルで行われた。ハンガリーからはメツジェシ首相及びコヴァーチ外相が出席した。

5. 二国間関係(要人往来等)

- 2月24日 - 3月4日：シリ国会議長、マレーシア、シンガポール、ベトナム訪問。
- 3月4日：フェネク・アダーミ・マルタ首相、当国訪問。メツジェシ首相と会談。
- 3月5日：マードル大統領、トライコフスキー・マケドニア大統領葬儀に参列(マケドニア)。
- 3月8日：コヴァーチ外相、独訪問。シュトイバー・バイエルン州知事他と会談。
- 3月9 - 10日：デブレ仏国民議会議長、当国訪問。マードル大統領を表敬訪問、コヴァーチ外相及びシリ国会議長と会談。
- 3月16 - 17日：マードル大統領、レバノン公式訪問。
- 3月18 - 19日：マードル大統領、キプロス公式訪問。
- 3月25 - 27日：チャンピイ大統領、当国訪問。25日、マードル大統領を表敬訪問、シリ国会議長と会談。26日、当国国会議事堂にて演説。
- 3月26日：シリ国会議長、クロアチア訪問。メチアル・クロアチア大統領を表敬訪問、サナーデル・クロアチア首相、セクシュ・クロアチア議会議長及びクロアチアに居住するハンガリー系住民の代表と会談。
- 3月30日：ジョアーナ・ルーマニア外相、当国訪問。メツジェシ首相、コヴァーチ外相及びネーメト国会外交委員長と会談。

6. ハンガリー系少数民族関連

18日、マルコー・ベーラ・ルーマニア・ハンガリー人民民主同盟(RMDSZ)党首が当国を訪問し、コヴァーチ外相と会談した。RMDSZは、ルーマニアに居住するハンガリー系住民の利益を代表するハンガリー系組織・政党で、ルーマニア議会に39議席(上院12、下院27)を有し、ルーマニア議会与党第1党のルーマニア社会党(PSD)と閣外協力の関係を維持している。

． 経 済

1． 各種統計

(1) 2 0 0 3 年 G D P 成長率

2 日、中央統計局は 2 0 0 3 年第 4 四半期の G D P 成長率（速報値）が前年同期比 3 . 5 % となり、2 0 0 3 年通年の G D P 成長率は 2 . 9 % であったと発表した（ 2 0 0 2 年は 3 . 5 % ）。2 0 0 3 年第 2 四半期 G D P 成長率は前年同期比 2 . 4 %、第 3 四半期は同 2 . 9 % であった。第 4 四半期では鉱工業生産とサービス部門の成長が伸びたのに対して、農業部門では減少した。

(2) 2 0 0 4 年 1 月の賃金水準

中央統計局によれば、2 0 0 4 年 1 月の実質賃金は、平均ネット賃金の 7 . 0 % 上昇及び消費者物価指数の 6 . 6 % 上昇を受け、前年比 0 . 4 % 上昇した。2 0 0 3 年の実質賃金上昇率は、ネット賃金の 1 4 . 3 % 上昇と年平均インフレ率 4 . 7 % を受けて、9 . 2 % の上昇であった。1 月のグロス賃金月額の前年比は 8 . 1 % 上昇し 1 4 6 , 1 7 6 フォリント（ 5 7 3 . 5 ユーロ）であり、民間部門で 9 . 8 % 上昇、公共部門では 6 . 2 % の上昇であった。また 1 月のネット賃金月額は前年比 7 . 0 % 上昇し 9 3 , 7 0 8 フォリントであり、民間部門で 8 . 1 % 上昇、公共部門では 5 . 6 % の上昇であった。

2． ユーロ参加時期等に関する中銀総裁発言

1 9 日、ヤーライ中銀総裁は、中銀ビジターセンター開所式で次の通り述べた。

(1) 現在のフォリントの為替レートはハンガリー経済に対する信用回復を反映しているが、まだ十分なフォリント高ではない。今後、信用が再確立されれば、金利引き下げの可能性もある。

(2) ハンガリー経済には良い進展が見られており、市場はこれらの進展を承知している。ユーロ導入に関し、安定した為替レートを保ちつつインフレ率を下げるためには厳しい財政政策と賃金政策が必要である。中銀はできる限り早期のユーロ導入は経済にとって良い効果をもたらすと信じているが、経済収斂のスピードについては政治的要素の絡む問題である。仮にユーロ導入を遅らせるならば、E R M - 2 加盟を急ぐ必要はない。現ユーロ参加国のユーロ参加前の状況と比較すると、ハンガリーではより多くの国民が遅い時期のユーロ導入に賛成しており、経済収斂のペースについて様々な意見がある上、同経済収斂に対する国民の支持の強さも疑わしい。

3． 基準金利引き下げ

(1) 2 2 日、中央銀行は基準金利を 0 . 2 5 % 引き下げ 1 2 . 2 5 % とする旨発表した（注：中銀は 4 月 5 日にも右を更に 0 . 2 5 % 引き下げ、1 2 . 0 0 % とする旨発表している）。

(イ) 今次発表は市場関係者を驚かせた。この金利引き下げは 2 0 0 3 年 1 月以降、初めての引き下げとなる。今次引き下げの理由として金融協議会は、経済成長の加速、輸出の拡大、鉱工業生産高の急速な伸び、競争力の改善、企業の直接投資の増加、経常収支赤字の改善を挙げている。今回の中銀の発表は 1 ヶ月前の発表とはかなり異なった調子となっており、これについてアナリストらは、金融協議会の意向が徐々に中銀の意向と異なってきているとしている。尚、金融協議会

の二人の新しいメンバーであるハルディ・イロナ氏とビハリ・ヴィルモシュ氏は今回初めて協議会に参加した。

(ロ) 金融研究所 (Penzugykutato) のネメニ・ユディット氏は、マーケットは基準金利の引き下げがあるとすればもう少し大きく 0.5% 程の引き下げになるであろうと予測していた、もし中銀が市場の期待に応えることができれば、フォリントはまた不安定になる、としている。GKI 経済研究所のカルシャイ・ガボール氏は、「これは中銀にとっては非常に大きなステップであるが、経済にとっての影響は小さい」と述べている。ING 銀行のバルツァ・ジョルジ氏は、フォリントの為替相場はこの 2 週間で 1 ユーロ = 250 フォリントまで到達するであろうとしている。BNPパリバ銀行のストラテジスト Michal Dybula 氏は、「今回の中銀の発表は、投資家に対して、本格的な金利引き下げが行われる前に国債を購入するよう予告している」としており、これは 5 月に発表される予定の中銀インフレ・レポートが明るい見通しであることを意味しているとしている。投資銀行の JP モルガンでは、基準金利は 7 月までには 11.5%、2004 年末までに 10.5% になるであろうと予測している。

(2) その後のアナリストらの反応 (24 日付ナビ・ガザシャーク紙)

(イ) 関係者の間では、今後の金利引き下げについての過大予測により市場のオーバーシュートを引き起こすのではないかの懸念が強まっている。市場関係者は今後 2 ヶ月間に更に 1% の利下げがあると予想している。アナリストらによれば、フォリント高が更に進み、集中的な国債買いが続けば、中銀は更なる金利引き下げを決定するかも知れない。同時にアナリストらは、突然の大幅な金利引き下げや、金利引き下げへの過剰な期待は長期間に亘る影響を及ぼすと警告している。Credit Agricole Indosuez 社のアナリストは、22 日発表の金利引き下げでさえ「フォリント・バブル」を引き起こしかねないとしている。ロイターによれば、ハンガリーの 12.25% の基準金利は欧州で最も高く、ユーロに対して 4% もフォリント高となったのは、確定した投資でなくむしろポートフォリオ資本による。

(ロ) 現在審議中の中央銀行関連法の改訂後は、中銀総裁の実質的権限は増大する。これにより、中銀総裁は基準金利を決定する権限を有し、更にフォリントの準備高を変更するに当たっての義務であった 15 日前の速報レポートの発行が撤廃されることで、金融市場の異常な状況に対処できるようになる。

(ハ) 23 日の国債市場からは、投資家の信用が更に強まったことが明らかである。国債の購入にあたり、外国投資家はフォリントの資金調達が必要になるため、これがハンガリーの通貨に良い影響を与える。その結果、フォリントは 1 ユーロ = 252 フォリントから、午後には 251.1 フォリントとなった。ING 銀行の専門家は、昨今の状況は国債市場の状況に左右されるしており、国債市場の良好な状況が続けばユーロ安も続くであろうが、1 ユーロ = 250.5 フォリントのレベルから収益化が始まるとの見解を示している。OTP 銀行のアナリストは、22 日の予期せぬ利下げ発表から金利引き下げの時期が来たことが予測されるが、0.25% の利下げは中銀が急速な金融緩和はしたくないということの現れであるとしている。

4. 地方事業税改正の動き

(1) チツラグ経済運輸大臣は、本年に入り、地方事業税の改正を検討している旨の発言を行っていたが、29 日に行われた競争力協議会の席上、現行制度では企業税の課税対象となる収益から地方事業税の 25% 分しか控除できないが、これを全額控除

できるようにすべきとの提案が同経済相より出された。また同協議会では、地方事業税自体を廃止する可能性についても議論された。

(2) 30日、米国商工会議所主催の投資協議会で講演したメッジェシ首相は、地方事業税の削減には賛成すると述べつつも、その結果、地方自治体が損失を蒙ることは認められず、段階的削減なら受け入れられると付言した。

5 . 農民デモ以降の牛乳加工品を巡る動向

(1) 2月中下旬にかけて行われた農民デモの際に、農業・地域開発省と農業者団体との交渉の結果、「reggeli ital」(朝の飲み物) と称する牛乳加工品に掛けられていた付加価値税が15%から25%に引き上げられた。また、大手小売店4社(その後1社が加わり5社となった) は事前の予告なく店頭での同製品の販売を3月3日から中止した。

(2) 11日、競争庁は、小売店による「reggeli ital」の仕入れ中止について、違法行為は見つからなかったものの、この問題については引き続き調査を続けるとした。また、現在販売を続けている小売店については、新たな注文を中止し在庫の処分を行うか、もしくはその代わりに、消費者に対する製品情報の表示方法の改善を選ぶか、の選択肢があるが、本件は農業者と加工業者双方の利害に微妙な問題を抱えており、競争庁にとっては後者の選択が望ましい解決策であるとした。

6 . 水利・治水政策

22日、セゲドで行われた世界水の日記念式典でペルシャニ環境・水利大臣は、2005年から2015年にかけて実施される国連国際水の10年において、ハンガリーでは洪水対策、下水処理施設整備、安全な水の供給といった分野への投資が重点的に行われ、また、政府は下水道普及率を2015年までに現在の55%から85%に引き上げると語った。

7 . EU加盟後の労働力移動問題

(1) 3日、ハンガリー政府は、EU加盟後、労働者の移動の自由について相互主義に基づき対応すると発表した。これは、西欧の数力国が、EU拡大に向けた準備段階での寛大なアプローチから態度を反転させたことを受けている。アイルランドと英国は福祉制度の利用制限を検討しており、スウェーデンとデンマークは中東欧諸国からの労働者が賃金破壊(労働力の安売り) をしないという証明を求める方針である。またオランダはドイツ、オーストリアと同様の割当規制をしようとしている。フィンランド、フランス、スペイン、ギリシャ及びベルギーはケース・バイ・ケースで対応しようとしているが、イタリア、ポルトガル、ルクセンブルグはまだ自国の考え方を表明していない。

東欧諸国からの大量の労働力の流入を危惧する現EU加盟国は、EU拡大についての協議の中で、特例として労働市場の即時完全開放についての義務の免除を要求していた。その結果、いわゆる2+3+2年の移行期間が設定された。この7年間の移行期間の最初の2年間は、現加盟国は独自の規制を適用することが可能で、次の3年間は、現加盟国はブリュッセルにおいて主旨書を発行すれば規制の継続が可能、最後の2年間は、現加盟国は十分な正当性を証明でき欧州委員会からの承認を得られれば、EU法と異なった規制を継続することが可能となる。

(2) 2 5 日付当地紙によれば、メッジェシ首相は本件につきプロディ欧州委委員長と議長国アイルランドのアハーン首相宛に書簡を発出し、労働者の移動について加盟条約の一般規定を適用するよう要請するとともに、労働者の移動の制限は 1 2 ヶ月間で解除されるべきであるとしてできる限り早期の通行自由な国境の導入を要請した。

(本資料は当該月間のハンガリー紙等の報道をベースにとりまとめたものです。)